

令和7年度第2回 摂津市健康づくり推進協議会 ご意見・ご質問と回答

日時 令和8年3月19日(木) 14時~15時15分

場所 摂津市役所 本館3階 301会議室

出席者 委員9名(4名欠席)

【次第1】

議題「まちごと元気!健康せつつ21(第3次)の進捗報告・令和7年度事業報告及び令和8年度事業計画について」について

ご意見

イベントにおける健康測定会は、研究機関等からの監修等はあるのか、結果の評価等の取組はいかがか。啓発も大事であるが、健康増進を進める市として一定の評価、エビデンスがあるもので取組したほうがよいのではないか。

〈回答〉今回の取組は企業との連携協定の取組として実施していたものであり、監修等はない。測定結果から運動や食生活の見直しを考えてもらう健康づくりのひとつのきっかけづくりとして、啓発を目的に今後も実施していく予定である。評価については、今後検討したい。

ご意見

計画の指標「朝食を毎日食べている子どもの増加」については、小学生は昨年度より増加しており、学校での食育が一定の成果であると感じているが、中学生が減少している。中学校での食育の大切さ、食の偏りの弊害について、特に思春期の成育において非常に大切だと感じる。中学校においても食育に取り組んでいただきたい。

ご意見

喫煙、受動喫煙においては妊婦の喫煙も増えている。喫煙そのものの弊害についても、もっとはっきりと啓発したらどうか。危険性が定かではない電子たばこについても啓発してほしい。過度な飲酒も妊婦も含め増えている。危機感を持って啓発に取り組んでほしい。

〈回答〉朝食の喫食については、中学生になると生活状況の変化もあると思うが、増加の目標設定としている。教育委員会にも管理栄養士がおり、それぞれの部署で、各世代への取組を全市的に強化している。状況を横断的に共有して、どのような取組がよいのか検討していきたい。

喫煙率は特定健診の質問項目を指標としており、大阪府全体と比較して、本市は飲酒も喫煙も高い状況であり、課題と認識している。本市では、受動喫煙の防止を高く掲げており、特定健診会場では、喫煙の本数が多い方に対して、禁煙外来等を紹介している。今後はタバコ自体の害についてもう少し啓発していきたい。

妊婦も含め飲酒・喫煙は、習慣化されている等、やめられない理由がなんらかあると感じており、知識の普及・啓発だけでなく、やめられない理由にも寄り添いながら継続的に向き合っていきたい。

ご意見

市内の路上喫煙禁止地区がわかりにくい。場所をきっちり示すとかの取組についてはどうか。

〈回答〉市内の路上喫煙禁止地区は、人流の多い場所を設定させていただいており、その場で喫煙していたとしても罰則規定はない。路上喫煙禁止地区にもかかわらず喫煙者がいる等の連絡をいただくこともある。その際は、その場にわかりやすい案内を掲示するようにはしている。今年度、チラシを新たに作成し、受動喫煙防止のため目を引くようなチラシを作成した。

また、新しい取組として来年度イエローグリーンキャンペーンを実施する予定である。キャンペーンではのぼりをたてるなど、できるだけ通行人から目につく工夫を検討している。

ご意見

健康日本 21（第 3 次）では、フレイル対策で骨粗しょう症検診受診率の目標値が掲げられているが、骨粗しょう症についての取組はいかがか。

〈回答〉骨粗しょう症検診の受診率の向上については、本計画の KPI としては掲げていない。健康増進法では 40 歳から 70 歳の節目年齢の方とされているが、本市は 16 歳以上の方を対象に実施している。そのため受診率の算出において国との比較が難しい。

要介護、特に要支援になられる原因として骨折等があるため、検診では一定の年齢で要精検になった方へ紹介状を出す取組を行っている。その後も医療に繋がっていない方に対しては、再度受診勧奨を行っている。

ご意見

間違ったダイエットをしている若年者が多く、ロコモや骨粗しょう症の検査をするとあまりよくない状況がある。将来の要介護予備軍が多くなっていくのではないかと懸念される。将来を見据えて予防していく事業を学校保健等、各世代で健康リテラシーを早い時期から深める取組も検討していただきたい。

食育に取り組む企業との取組で骨密度の測定会を実施されているところもある。そのような連携もされてはどうか。

〈回答〉国の健康日本 21（第 3 次）では、ライフコースアプローチが重要視されている。女性のやせが問題視されており、妊婦の適正体重者の増加を目指し、妊娠初期・中期・後期に自身の BMI と体重増加についてのグラフがあるので、次年度は二次元コードで詳しく周知する取組を行う予定としている。

ご意見

特定健診の受診率が目標値 60%であるが、低い状況である。全国でも同様なのか。何か対策をしたほうがよいのではないか。

地域職域連携の取組も含め、他市町村の好事例を参考に受診率の向上に取り組んでいただきたい。

〈回答〉特定健診受診率の向上は、市民の健康づくりには非常に重要であると感じている。保健センターで集団健診として実施しているが、各公共機関においても出張健診を実施しており、今年度は市役所の庁舎でも実施する予定である。今後も受診率の向上に向けて、課題に対して何ができるか関係課と連携し市民の健康づくりを行っていききたい。